



自己紹介

著者	手塚 奈々子
雑誌名	あんげろす : 明治学院大学キリスト教研究所ニューズレター
号	19
ページ	2-3
発行年	1998-07-15
URL	http://hdl.handle.net/10723/265

自己紹介

手塚 奈々子

この4月に明治学院大学一般教育部キリスト教学の専任講師として就職し、同時にキリスト教研究所の所員として迎えられ、とてもありがたく思っています。私は明治学院大学では、6年前から非常勤で「キリスト教学専門」の講義をさせて頂いておりました。明治学院大学は男女共学で、明るい素直な学生が多く、また教員の方々もキリスト教を教えるのに熱心なので、以前から非常に好感を持っておりました。この度自己紹介とのことなのですが、非常勤をしていたので大学の雰囲気は少し知っておりますが、研究所の活動については無知なので、自分がキリスト者であることに関わることと、自分の今まで研究してきたこと、そしてこれからの活動と研究上の抱負を書いてみようと思いまし

た。

私は、カトリックの麹町教会で14年前に洗礼を受けました。現在も同じ教会に所属し、教会活動をしております。私の身分は在セフランシスコ会会員で、信徒ですが貞潔の誓願を立てている奉獻者です。私自身は宗派の違いにこだわらずに包括的な見地に立つ者であります。この度私がカトリックにもかかわらず採用して頂いたことに関して明治学院大学に感謝しております。

私の研究に関しては、教父学が専門で、特に4世紀のギリシア教父ニュッサのグレゴリオスの人間論を研究してきました。私は初代教会から中世にかけてのキリスト教の人間論に関心があります。今までの研究経歴は、早稲田で哲学、立教の大学院で神学を学び、日本学術振興会の特別研究員として東大で研究し、その後8つの大学で非常勤で主に2世紀から8世紀の教父学を中心に、古代・中世の思想、文化等講義して参りました。教父学の分野に関しては宗派の別なく研究が進められている分野であります。明治学院大学には教父の専門の方々が多く、プロジェクトの「古代キリスト教とヘレニズム思潮」に加えて頂き、研究活動の幅を広げさせて頂けることにとても感謝しております。広い視野に立って、キリスト教そのものの広さと深さを味わい、恵まれた研究施設の中で研究できることに喜びを感じております。

大学でキリスト教研究に励むことも生きがいですが、大学でいる

いろな人々に出会い、相互に交流することに喜びを感じます。キリスト教研究所は様々な活動を今までしてこられました。同研究所でこれから多くの様々な背景を持ちながらも同じキリストを目指す方々と巡り会え刺激されるであろうことをとても楽しみにしております。人々との出会い、研究、活動を通してキリストを伝えたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。

(てづか ななこ

所員、一般教育部専任講師)

ご挨拶にかえて

播本 秀史

昨年度から文学部教職課程で教鞭を執らせていただいております。昨年度、前所長の加山先生より、所員へのお誘いがございましたが、諸々の都合で一年間、猶予をいただいていた。

さて、この四月より所員となったわけですが、今年度、まだ一度もキリスト教研究所に行っていないことに気付きました。先の所員会議は授業とぶつかって出席できませんでした。というわけで、まだ所員としての実態も自覚もなく、いわば宙に浮いているような状態です。

私は「キリスト教主義教育研究」のプロジェクトの一員ということなのですが、どういう働きをすればよいのか分かっていません。